

1 自己評価及び外部評価結果(かえで棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172000503		
法人名	有限会社 吉良見ライフサービス		
事業所名	グループホーム きらみの憩(かえで棟)		
所在地	岐阜県恵那市明智町吉良見472-23		
自己評価作成日	平成21年10月5日	評価結果市町村受理日	平成22年1月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172000503&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域社会との交流に力を入れ、こちらから積極的に行事に参加したり、ホームに来ていただき機会を設け、日常的に交流を図れるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、職員は理念を掲示し、毎日の申し送りやユニットごとの会議等で確認している。また、利用者の立場に立って考え、気持ちや意思を大切に、安心して毎日が過ごせるように心がけている。小学校児童の訪問や、地域住民行事への会場提供、川掃除への参加、認知症相談等、地域の一人として出来る役割をにない、回覧で案内を出す等積極的に交流している。外部評価や運営推進会議での意見、日々の介護の中での気づきを取り入れ、聴く姿勢を大切にして、サービス向上に取り組んでいる。入居者の誇りやプライドを大切に、行動のみならず言葉かけも職員間で気を配り、よりよいケアが出来る事を目指している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

かえで棟

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所や更衣室に掲げ、常に意識をし実践につなげていくよう取り組みを話し合っている。	見やすいところに掲示してある理念を、毎日のケアの中で意識している。会議等で、入居者の気持ちを聞きながら寄り添う介護を話し合い、地域の中での生活が継続できる事を、日々実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、学校、地域の行事に参加したり、ホムラの行事の夏祭りに地域の方に参加していただいたりと、常に交流を図っている。	自治会の回覧板を回し、行事案内や認知症相談窓口である事を伝えている。全員で川掃除への参加や、手作りの雑巾を小学校へ送ったり、園児・小学生などの訪問等、地域の一員として日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を開設したり、小学生に福祉の勉強の場や中学生の職場体験の場を提供し人材育成に取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回取り組み状況等について報告をしたり、地域の方からの意見・要望等を聞き、話し合いをしサービス向上に活かしている。	多職種の人々が参加し、家族の要望、外部評価等について話し合い、サービスの向上につなげている。そこでの要望や意見を活かして、地元の木で作った写真入名札を作り、顔と名前を知って戴く工夫をしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催する介護サービス調整会議などに毎回参加をし、情報交換して連携を図っている。	予防接種や、法令に関する質問、利用料金の問題など常に連絡を取り相談している。自市町村のみならず、他市町村の入居者に関しても連絡し、協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がもたらす弊害や身体拘束をしないケアの理解と実践について、毎月ケア会議の中で、身体拘束委員会を開催し、全職員で取り組んでいる。	全職員で「拘束はしない」を常に意識している。鈴やセンサーをつける等の工夫で玄関の施錠をしていない。行動を制限するような言葉かけにならない様に気をつけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加をしたり、ケア会議とうで勉強会を開き防止に努めている。		

グループホーム きらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御利用者に後見人制度の利用の方がいるので、説明等はしている。権利擁護は研修等受けたものが中心となり、全体会議で話し合い理解と活用が出来るよう取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には、十分な説明をし、不安や疑問点など尋ね、家族や利用者が理解・納得されるまで話しをしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、家族の来訪の際には、意見や苦情等に耳を傾け、早急な対応をしている。月に一度、市から相談員に来所して頂き、利用者の声を聞いていただいている。	年一回開催する家族会で、意見・要望を聞いている。来所時の声かけ、個別の面談を持つ等して、遠慮なく意見を言える機会を作っている。家族のちょっとした言葉にも耳を傾け検討し、日々の介護に活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のケア会議で、スタッフの意見を集約し、管理者会議にて報告するようにしている。	管理者は、職員が話しやすい雰囲気を作り、個別に意見を聞いている。職員が提案などをし易くする為、管理者は中間職員を通して意見を聞く機会も持ち、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議でた意見要望など、管理者会議で報告し本部に伝え、職員がより良く働ける環境にしようと努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要とする研修を選択をし、階級・経験年数等により対象者を積極的に受講している。研修報告を全体会議で発表してもらい、全職員で勉強するようにしている。。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会東濃支部会に出席し色々な情報交換などしたり、恵那地区で共同で、催し物を企画するなどの取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、思いが出しやすい環境を作り、共感的な態度で、本人の求めていることや不安を理解するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と一緒に事前面談を必ず行い、思いを出しやすい環境を作るように努めている。時として、本人と部屋を別にする等の配慮をし、ゆっくり聞くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを確認し、安心して利用できるよう早急に出来る限りの対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを知ること努め、昔からしてきた事、出来る事を教えてもらう場面を多く持ち、共に支えあう関係に心掛けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の思いを踏まえて、本人の気持ち言葉を家族に伝えながら、家族でしか出来ないことは、関わって頂く様に連携をとっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・近所の顔なじみの方など、気軽に来所していただけるような声掛けや、雰囲気作りをしている。	友人・知人の来訪時には笑顔と湯茶を準備してくつろいでもらい、再訪しやすい配慮をしている。絵手紙等下さる方に、入居者が返事を出す支援をしている。なじみの理・美容院は家族の協力を得て、利用を続けている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人合わない人の把握をし、より良い関係を築けるよう職員が間に入り支援している。		

グループホーム きらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係は難しいが、契約終了後も色々支援出来る事があればの意思はご家族等に伝えるなどしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でゆっくり関わる時間を作ったり、行動・表情から意思意向を把握するよう努めている。	職員は、入浴時のゆったりした時間に話しかけ、思いを聞いている。言葉で表せない人も、表情・動作等からのサインを受けとめて、それを申し送りで共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前時に生活歴に把握の必要性を十分家族に説明し、入所後もその都度、状況に合わせ継続的に行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動や思いを感じ取り、職員でその都度話し合うなど把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議や申し送りで、意見交換やモニタリング・カンファレンスを行い、介護計画に取り入れるよう努めている。	3ヶ月毎に、利用者、家族、職員の意見を聞きプランに活かしている。入退院時、計画の変更等については電話等で連絡している。変更後の留意点については、申し送りノートに挿んで周知できるようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の必要性を会議で伝えるなどして、記録の充実を図ると共に、職員間の情報共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて、通院等必要な支援に対応している。		

グループホーム きらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生、保育園、ご近所、入所前の友人・知人の方に来所していただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、眼科、歯科など複数の医療機関と関係を密にしている。又、家人の希望するかかりつけ医があれば、状況に合わせて通院代行している。	家族と共にかかりつけ医に受診する時は、事業所と提携医から本人の近況や情報提供をしている。家族から得た受診後の情報を、事業所の提携医に伝え医療面での連携をとっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。また、協力医や薬剤師と相談できる関係ができ、連携が取れている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応、医師からの説明を家族と一緒にに行ったり、支援方法など情報を医療機関に提供している。また、3日に一回は見舞い、医師・ケ-スワ-カ-看護師との情報交換しながら、早期退院への支援を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向をふまえ、医師・薬剤師・職員が連携を取り、納得した最期を迎えられるよう、その都度、意思確認をし記録に残し、全職員で共有するよう努めている。	入居時に本人・家族と話し合い、その後も状況変化の都度、確認をしている。重度化に関わる指針を持ち、家族との話し合いには医師も参加し、医療面での連携と職員の協力のもと、看取りに取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回、消防署の協力を得て、救急時の対応を実施し、全職員が対応出来るようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練・対策は行っているが、水害・地震を想定しての訓練・対策は、行っていないのが、現状である。	消防署の指導を得て、自治会長・老人会長等も参加し火災訓練を行っている。近所にも支援のお願いをしている。他の災害訓練や、地域と一緒にの訓練、夜間想定訓練はまだ実施していない。	水害・地震の想定訓練、夜間想定訓練、地域自治会等参加での訓練を行って欲しい。また、それに備えての多少の備蓄も検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねない様な言葉かけをする様常に意識をし、介護に当たる様気をつけている	居室入室時の声かけ、昼間使用していないポータブルトイレに布を掛ける等、日々気をつけている。一人ひとりの思い・こだわりを大切にして、誇りを傷つけない言葉かけ・対応を意識して行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めたりせず、利用者本人に決めてもらえる様な、声掛けに心掛けている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ本人の気持ちを尊重できるよう希望を尋ねながら過ごして頂くよう支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの服を着ているのかを選んで頂いたり、外出時にはお化粧をしてお洒落をし、楽しんで頂いたりしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間のメニュー表を見て楽しみな献立について会話を促したり食器洗い、お膳拭き等職員と一緒にしている	個々の力に応じての季節郷土食作り等してもらっている。正月には医師の見守りのもと、安心して餅入りの雑煮を食べる事が出来る。刻み食は、配膳後食卓の上で刻み、見る楽しみも大切にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も一人ひとりに合わせ出し、栄養士による献立表にて食事を作っている食事量、水分量は一人ひとりチェックをしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で磨ける方は、声を掛け見守り出来ない方には、毎食後ケアを行っている		

グループホーム きらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を使用し、排泄のわからない利用者にも時間を見ながら誘導しトイレで出来る様に支援している	尿量、回数など個々の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導して支援している。入居後、日常生活の活動性を高め、生活リズムを改善する事により、排泄の自立支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便を確認し、個々の状態に応じ下剤を服用したり出にくい方には朝一番に牛乳を飲んで頂いたり、水分補給や運動などで便秘にならない様に心掛けている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は安全安楽に入浴して頂く為、職員の多い時間帯になっている利用者のその日の希望やタイミングを合わせながら入浴できるように支援している	曜日、時間帯は職員の多い時間帯に設定している。気が進まないときはタイミングをずらして勤めている。夏には週2回の入浴にシャワー浴、清拭等を行っているが、人員の問題もあり、普段は週2回の入浴となっている。	入浴を楽しむために、希望の曜日にも入浴できるよう人員配置の再考をお願いしたい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく寝る事が無い様に活動を促したり、体調や、本人の希望も考え休んで頂く、寝付けない時には、添い寝をしたり、一緒にお茶を飲み話をする等対応している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作成し、薬の目的や副作用等把握出来るよう努力している薬の変更があったり、状態変化がある時には、しっかり記録し、申し送り等で連携を図っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴など把握し一人ひとり出来る事をお願いし、生活に張りが持てるように支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や、本人の体調に応じて散歩に出掛けている家族にも協力を得ながら外出支援を行っている	運動量の少ない人にも声かけをし、広場で体操する等、戸外で活動するようにしている。職員は希望を聞き、買い物ツアーに出かけている。季節行事としての花見、本人希望の家族との墓参り等の外出支援を行っている。	

グループホーム きらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安を感じる人に関しては、小額のお金を持ってもらっている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など利用者の希望に応じて対応している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りつけをしたり、利用者の方に生け花をして頂き花を飾ったりしている	地域住民との季節の行事写真や、飾ってある花等、季節が感じられる工夫をしている。入居者の手刺繍入り座布団や茶道具が置いてある。天窓を開けて自然の風を入れ、居間には台所から炊飯や調理の香りがして、生活感が感じられる工夫がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになれるスペースはないが、ソファの配置などで落ち着ける空間を作っている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を使用する事での利点など家族に理解、協力を得家から馴染みの物を持って来て頂いている	箆笥や、椅子等の家具を置き、自分で作った暖簾がかけてある。得意な絵、友達からの絵手紙を壁に貼り、家族に特技の師範免許状を持ってきてもらう等、その人が活躍してきた生活歴の感じられる工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事、解かる事を把握し、状態に合わせて家具や、ポータブルの配置を変えたり、貼り紙をしたり環境整備に努める様にしている		

1 自己評価及び外部評価結果(ききょう棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172000503		
法人名	有限会社 吉良見ライフサービス		
事業所名	グループホーム きらみの憩(ききょう棟)		
所在地	岐阜県恵那市明智町吉良見472-23		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

ききょう棟

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所や更衣室に掲げ、常に意識をし実践につなげていくよう取り組みを話し合っている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、学校、地域の行事に参加したり、ホームの行事の夏祭りに地域の方に参加していただいたりと、常に交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を開設したり、小学生に福祉の勉強の場や中学生の職場体験の場を提供し人材育成に取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回取り組み状況等について報告をしたり、地域の方からの意見・要望等を聞き、話し合いをしサービス向上に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催する介護サービス調整会議などに毎回参加をし、情報交換して連携を図っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がもたらす弊害や身体拘束をしないケアの理解と実践について、毎月ケア会議の中で、身体拘束委員会を開催し、全職員で取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加をしたり、ケア会議とうで勉強会を開き防止に努めている。		

グループホーム きらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御利用者に後見人制度の利用の方かいるので、説明等はしている。権利擁護は研修等受けたものが中心となり、全体会議で話し合い理解と活用が出来るよう取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には、十分な説明をし、不安や疑問点など尋ね、家族や利用者が理解・納得されるまで話しをしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、家族の来訪の際には、意見や苦情等に耳を傾け、早急な対応をしている。月に一度、市から相談員に来所して頂き、利用者の声を聞いていただいている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のケア会議で、スタッフの意見を集約し、管理者会議にて報告するようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議でた意見要望など、管理者会議で報告し本部に伝え、職員がより良く働ける環境にしようと努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要とする研修を選択をし、階級・経験年数等により対象者を積極的に受講している。研修報告を全体会議で発表してもらい、全職員で勉強するようにしている。。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会東濃支部会に出席し色々な情報交換などしたり、恵那地区で共同で、催し物を企画するなどの取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、思いが出しやすい環境を作り、共感的な態度で、本人の求めていることや不安を理解するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と一緒に事前面接を必ず行い、思いを出しやすい環境を作るように努めている。時として、本人と部屋を別にする等の配慮をし、ゆっくり聞くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを確認し、安心して利用できるよう早急に出来る限りの対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを知ること努め、昔からしてきた事、出来る事を教しえてもらう場面を多く持ち、共に支えあう関係に心掛けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の思いを踏まえて、本人の気持ち言葉を家族に伝えながら、家族でしか出来ないことは、関わって頂く様に連携をとっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・近所の顔なじみの方など、気軽に来所していただけるような声掛けや、雰囲気作りをしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人合わない人の把握をし、より良い関係を築けるよう職員が間に入り支援している。		

グループホーム きらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係は難しいが、契約終了後も色々支援出来る事があればの意思はご家族等に伝えるなどしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でゆっくり関わる時間を作ったり、行動・表情から意思意向を把握するよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前時に生活歴に把握の必要性を十分家族に説明し、入所後もその都度、状況に合わせ継続的に行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動や思いを感じ取り、職員でその都度話し合うなど把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議や申し送りで、意見交換やモニタリング・カンファレンスを行い、介護計画に取り入れるよう努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の必要性を会議で伝えるなどして、記録の充実を図ると共に、職員間の情報共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて、通院等必要な支援に対応している。		

グループホーム きらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生、保育園、ご近所、入所前の友人・知人の方に来所していただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、眼科、歯科など複数の医療機関と関係を密にしている。又、家人の希望するかかりつけ医があれば、状況に合わせて通院代行している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。また、協力医や薬剤師と相談できる関係ができ、連携が取れている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応、医師からの説明を家族と一緒にに行ったり、支援方法など情報を医療機関に提供している。また、3日に一回は見舞い、医師・ケ-スワ-カ-看護士との情報交換しながら、早期退院への支援を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向をふまえ、医師・薬剤師・職員が連携を取り、納得した最期を迎えられるよう、その都度、意思確認をし記録に残し、全職員で共有するよう努めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回、消防署の協力を得て、救急時の対応を実施し、全職員が対応出来るようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練・対策は行っているが、水害・地震を想定しての訓練・対策は、行っていないのが、現状である。		

グループホーム きらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねない様な言葉かけをする様常に意識をし、介護に当たる様気をつけている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めたりせず、利用者本人に決めてもらえる様な、声掛けに心掛けている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて本人の気持ちを尊重できるよう希望を尋ねながら過ごして頂くよう支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの服を着ているのかを選んで頂いたり、外出時にはお化粧をしてお洒落をし、楽しんで頂いたりしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間のメニュー表を見て楽しみな献立について会話を促したり食器洗い、お膳拭き等職員と一緒にやっている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も一人ひとりに合わせ出し、栄養士による献立表にて食事を作っている食事量、水分量は一人ひとりチェックをしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で磨ける方は、声を掛け見守り出来ない方には、毎食後ケアを行っている		

グループホーム きらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を使用し、排泄のわからない利用者にも時間を見ながら誘導しトイレで出来る様に支援している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便を確認し、個々の状態に応じ下剤を服用したり出にくい方には朝一番に牛乳を飲んで頂いたり、水分補給や運動などで便秘にならない様に心掛けている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は安全安楽に入浴して頂く為、職員の多い時間帯になっている利用者のその日の希望やタイミングを合わせながら入浴できるように支援している		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく寝る事が無い様に活動を促したり、体調や、本人の希望も考え休んで頂く、寝付けない時には、添い寝をしたり、一緒にお茶を飲み話をする等対応している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作成し、薬の目的や副作用等把握出来るよう努力している薬の変更があったり、状態変化がある時には、しっかり記録し、申し送り等で連携を図っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴など把握し一人ひとり出来る事をお願いし、生活に張りが持てるように支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や、本人の体調に応じて散歩に出掛けている家族にも協力を得ながら外出支援を行っている		

グループホーム きらみの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持っていないと不安を感じる人に関しては、小額のお金を持ってもらっている</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙など利用者の希望に応じて対応している</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとに飾りつけをしたり、利用者の方に生け花をして頂き花を飾ったりしている</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ダイニングの椅子等の移動をし、落ち着ける空間を作っている</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物を使用する事での利点など家族に理解、協力を得家から馴染みの物を持って来て頂いている</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとり出来る事、解かる事を把握し、状態に合わせて家具や、ポータブルの配置を変えたり、貼り紙をしたり環境整備に努める様にしている</p>		